

令和6年度

山梨県学力把握調査の結果概要

山梨県教育委員会

令和6年度 山梨県学力把握調査の結果概要

山梨県総合教育センター

1 調査の目的

- ・ 節目の学年における生徒の学習の定着状況を把握するため、調査を実施し、調査結果の分析を通して、早い段階から学習内容の不十分な理解を解消するなど、きめ細かな指導に役立てる。
- ・ 全国と本県を比較・分析し、授業改善につなげる。

2 調査の実施について

実施学年	校数	実施教科	実施生徒数	調査問題の範囲
中学校第2学年	82校 (分校、特別支援学校を含む)	国語	5,538人	中学校第1学年までに学習した内容
		数学	5,533人	
		英語	5,533人	

3 調査実施方式

1人1台端末等を用いたオンライン方式で実施

4 調査日時

実施日	実施時間		
	国語	数学	英語
令和6年6月3日(月)～ 令和6年6月14日(金) の期間で指定された実施 指定日に実施	45分	45分	45分

5 各教科の主な結果

教科	設問数(問)	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	県 - 全国(ポイント)
国語	24	58.5	54.8	3.7
数学	35	58.3	58.8	-0.5
英語	32	55.6	56.3	-0.7

推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

6 調査に基づく結果を踏まえた取組

結果分析・公表

- ・学力向上フォーラム 2024（8月22日実施）

調査の分析結果を公表し、本県生徒の学力調査における結果と課題を共有する。

- ・授業の改善・充実に向けた説明会（8月27日実施）

小中学校の教諭等に向け、授業の改善・充実に向けた説明会を実施する。「授業改善指導資料」を配付し授業改善への具体例を示す。

- ・山梨大学との連携

山梨大学と連携し、山梨県学力把握調査及び全国学力・学習状況調査結果について、専門的見地から助言を得て、分析や各種資料に反映する。

研修会・学校訪問

分析結果を反映させた研修や学校訪問による指導等を行う。学校訪問の際には、授業観察や研究会での様子を踏まえ、適切な指導を行う。

復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用した課題改善

生徒は、結果データから明らかになった課題等に合わせた復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用し、課題改善を図る。

課題のある学習内容について「ピックアップ問題」を作成及び配信

各学校は、「ピックアップ問題」を用いて、調査該当学年を含め全校体制で授業改善や個別の指導に生かす。

令和6年度 山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・国語

実施生徒数 (人)	設問数 (問)	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
5538	24	58.5	54.8	3.7

推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	51.6	47.5	4.1
	情報の扱い方に関する事項	49.0	44.2	4.8
	我が国の言語文化に関する事項	70.1	62.9	7.2
	話すこと・聞くこと	69.9	68.0	1.9
	書くこと	61.2	58.4	2.8
	読むこと	53.8	49.4	4.4
観点	知識・技能	54.3	49.5	4.8
	思考・判断・表現	59.9	56.5	3.4
解答形式	選択式	60.2	56.7	3.5
	短答式	61.3	55.1	6.2
	記述式	49.7	46.2	3.5

設問別正答率															
通し 番号	解答 形式	観点		領域						問題の内容	出題のねらい	県平均 正答率 (%)	推定 全国 値 (%)	全国との差 (ポイント)	
		知	思	言葉	情報	言語	話聞	書	読						
1	選択										学級をよりよくするために話し合う	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討しているかどうかをみる。	93.7	92.8	0.9
2	選択											必要に応じて質問しながら話の内容を捉えているかどうかをみる。	82.9	79.5	3.4
3	記述											話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめているかどうかをみる。	37.1	36.1	1.0
4	選択											自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えているかどうかをみる。	57.4	52.8	4.6
5	選択											相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫しているかどうかをみる。	78.3	78.6	-0.3
6	選択									地域の図書館についてのレポートを書く	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝えたいことを明確にしているかどうかをみる。	68.0	65.5	2.5	
7	選択									文法・語句に関する事項	情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。	49.0	44.2	4.8	

【比較的できている設問】

通し番号	問題内容	出題のねらい	観点	解答形式
23	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解しているかどうかをみる。	知識・技能	短答
1	学級をよりよくするために話し合う	目的に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討しているかどうかをみる。	思考・判断・表現	選択
2		必要に応じて質問しながら話の内容を整えているかどうかをみる。		選択
5		相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫しているかどうかをみる。		選択
16	言葉の使い方に関する文章を読む	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていくかどうかをみる。		選択
17				記述

【課題がある設問】

通し番号	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)	観点	出題形式
3	37.1	36.1	1.0	思考・判断・表現	記述
問題の内容		学級をよりよくするために話し合う			
出題のねらい		話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめているかどうかをみる。			
学習の指導に当たって		話題や展開を捉えながら話し合うために、何についてどのような目的で話し合っているかといった、話し合いの流れを生徒が常に意識できるような機会を設定することが考えられる。また、話し合いの展開に応じて、自分の発言と他者とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして、自分の考えや集団の考えをまとめられるように、学習活動の中で話し合いの内容を記録したり、考えを整理したりすることが大切である。			
通し番号	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)	観点	出題形式
12	28.7	25.6	3.1	思考・判断・表現	記述
問題の内容		言葉の使い方に関する文章を読む			
出題のねらい		目的に応じて必要な情報に着目して要約しているかどうかをみる。			
学習の指導に当たって		目的に応じて必要な情報に着目して要約するために、生徒が要約を行う目的を確認できる場面を学習活動の中に設定することが大切である。また、要約したものが目的に沿っているかを考え、さらに必要な情報を取り出したり捉えたりすることができているかを生徒が意識することが大切である。他者と協働的に学習に取り組む機会を設定することで、生徒が自分の要約した内容を俯瞰的な視点から振り返ることができると考えられる。			
通し番号	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)	観点	出題形式
19	35.2	33.5	1.7	知識・技能	選択
問題の内容		文法・語句に関する事項			
出題のねらい		文節の関係について理解しているかどうかをみる。			
学習の指導に当たって		文節の関係について理解を深めていくために、文節の関係について学習する機会を単発的に行うだけでなく、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の学習過程における指導との関連を意識的に図ることが必要となる。「A話すこと・聞くこと」における「表現、共有(話すこと)」、「B書くこと」における「考えの形成、記述」「推敲」の指導事項と関わりをもたせながら、知識として定着できる学習過程を考えることが大切である。			

令和6年度 山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・数学

実施生徒数 (人)	設問数 (問)	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
5533	35	58.3	58.8	-0.5

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
領域	数と式	60.3	61.2	-0.9
	図形	61.0	64.2	-3.2
	関数	58.7	63.4	-4.7
	データの活用	50.8	44.0	6.8
観点	知識・技能	61.9	60.8	1.1
	思考・判断・表現	50.5	54.3	-3.8
解答形式	選択式	62.2	63.4	-1.2
	短答式	56.1	54.6	1.5
	記述式	27.6	30.5	-2.9

設問別正答率							問題の内容	出題のねらい	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)
通し番号	解答形式	観点		領域							
		知	思	数式	図形	関数					
1	選択	○		○				絶対値について理解しているかどうかをみる。	74.6	78.4	-3.8
2	選択	○		○			正の数・負の数	負の分数と負の整数の大小を比較することができるかどうかをみる。	38.6	42.9	-4.3
3	選択	○		○				素因数分解について理解しているかどうかをみる。	82.8	78.4	4.4
4	選択	○		○				文字式	1次式の減法の計算ができるかどうかをみる。	67.9	55.7
5	選択	○		○			分子が1次式である分数の乗法の計算ができるかどうかをみる。		80.3	79.4	0.9
6	短答	○		○			1次方程式	移項について理解し、簡単な1次方程式を解くことができるかどうかをみる。	65.7	67.4	-1.7
7	短答	○		○				かっこを含む1次方程式を解くことができるかどうかをみる。	55.2	50.3	4.9
8	短答	○		○				分数を含む1次方程式を解くことができるかどうかをみる。	37.6	40.9	-3.3
9	短答	○		○			正の数・負の数	かっこを含む正負の数の減法の計算ができるかどうかをみる。	80.3	79.4	0.9
10	短答	○		○				累乗を含む正負の数の計算ができるかどうかをみる。	81.8	76.5	5.3
11	短答	○		○				正負の数の四則混合の計算ができるかどうかをみる。	53.6	54.2	-0.6

12	選択	○		○				文字式	問題文の数量の関係を正しい不等式に表すことができるかどうかをみる。	50.5	58.5	-8.0
13	短答		○	○				1次方程式	タイルの縦の長さを、比例式を使って求めることができるかどうかをみる。	56.8	64.9	-8.1
14	短答		○	○					所持金についての方程式の x が何を表しているかを求めることができるかどうかをみる。	46.2	53.3	-7.1
15	短答		○	○					ケーキの個数についての方程式の x が何を表しているかを求めることができるかどうかをみる。	32.0	37.6	-5.6
16	選択	○					○	比例・反比例	x 、 y の比例関係を表す表から比例の式を選ぶことができるかどうかをみる。	71.3	75.1	-3.8
17	選択	○					○		x 、 y の値が与えられたとき、それを満たす反比例の式を選ぶことができるかどうかをみる。	55.9	62.5	-6.6
18	選択	○					○		反比例のグラフから反比例の式を選ぶことができるかどうかをみる。	45.8	53.9	-8.1
19	選択		○				○		グラフの傾き方から、問題文の条件にあうグラフを選ぶことができるかどうかをみる。	51.0	55.7	-4.7
20	選択		○				○		日常生活の場面で比例の考え方が利用できることを理解し、問題解決に必要な情報を選ぶことができるかどうかをみる。	69.5	70.0	-0.5
21	選択	○					○	平面図形	合同な2つの図形をみて、どのような移動をさせたのかを理解しているかどうかをみる。	78.7	76.6	2.1
22	選択	○					○		三角形の角の二等分線をかかために必要な作図を選ぶことができるかどうかをみる。	83.5	84.6	-1.1
23	記述		○		○			空間図形	面と辺の位置関係について正しく理解し、問題文のことがらがいつも正しいとはいえないことを説明することができるかどうかをみる。	23.6	30.1	-6.5
24	選択		○		○				ある図形の回転体の見取図を選ぶことができるかどうかをみる。	72.0	75.9	-3.9
25	選択		○		○				四角錐の投影図を選ぶことができるかどうかをみる。	70.3	74.0	-3.7
26	選択		○		○				円錐の展開図から、その表面積を求める式を選ぶことができるかどうかをみる。	68.7	71.2	-2.5
27	選択	○			○				底面積が等しく、高さも等しい円錐と円柱の体積について、正しく説明した文章を選ぶことができるかどうかをみる。	51.1	54.7	-3.6
28	選択	○			○				球の体積を求める式を選ぶことができるかどうかをみる。	39.9	46.8	-6.9
29	選択	○					○		ヒストグラムの代表値の関係について、正しく理解している。	32.8	31.7	1.1
30	選択	○					○	度数分布表のある階級の度数を、ヒストグラムから読み取ることができるかどうかをみる。	89.8	83.2	6.6	
31	選択	○					○	あるデータの中央値を求めることができるかどうかをみる。	58.8	51.5	7.3	
32	短答	○					○	データの散らばりと代表値	累積度数について理解しているかどうかをみる。	44.0	26.1	17.9
33	短答	○					○	問題文のヒストグラムの階級の幅を読み取ることができるかどうかをみる。	64.3	50.3	14.0	
34	選択		○				○	問題文の表やヒストグラムを正しく読み取ることができるかどうかをみる。	34.2	34.2	0.0	
35	記述		○				○	平均値についての説明の正誤を判断し、その判断の理由を正しく説明することができるかどうかをみる。	31.7	30.8	0.9	

◎観点の表記の意味は下記の通りです。

【観点について】(知)知識・技能 (思)思考・判断・表現

【領域について】(数式)数と式 (図形)図形 (関数)関数 (デ活)データの活用

【比較的できている設問】

通し番号	問題内容	出題のねらい	観点	解答形式
1	正の数・負の数	絶対値について理解しているかどうかをみる。	知識・技能	選択
3		素因数分解について理解しているかどうかをみる。		選択
9		かっこを含む正負の数の減法の計算ができるかどうかをみる。		短答
10		累乗を含む正負の数の計算ができるかどうかをみる。		選択
5	文字式	分子が1次式である分数の乗法の計算ができるかどうかをみる。		短答
16	比例・反比例	x 、 y の比例関係を表す表から比例の式を選ぶことができるかどうかをみる。		選択
21	平面図形	合同な2つの図形をみて、どのような移動をさせたのかを理解しているかどうかをみる。		選択
22		三角形の角の二等分線をかくために必要な作図を選ぶことができるかどうかをみる。		選択
30	データの散らばりと代表値	度数分布表のある階級の度数を、ヒストグラムから読み取ることができるかどうかをみる。		選択
24	空間図形	ある図形の回転体の見取図を選ぶことができるかどうかをみる。		思考・判断・表現
25		四角錐の投影図を選ぶことができるかどうかをみる。	選択	

【課題がある設問】

通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
15	32.0	37.6	-5.5	思考・判断・表現	短答
問題の内容	1次方程式				
出題のねらい	ケーキの個数についての方程式の x が何を表しているかを求めることができるかどうかをみる。				
学習の指導に当たって	具体的な場面における問題を方程式を活用して解決する際、何を文字で表すかによって方程式がつくりやすかったり、つくりにくかったりすることに気付けるように指導することが大切である。このことは、本設問を使って授業を行う場合、買うケーキの個数と持っていた金額をそれぞれ文字 x で表して方程式をつくり、比較することで確かめることができる。その際、つくった方程式から具体的な事象の数量やその関係を読み取る活動を取り入れることが考えられる。				
通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
23	23.6	30.1	-6.5	思考・判断・表現	記述
問題の内容	空間図形				
出題のねらい	面と辺の位置関係について正しく理解し、問題文のことがらがいつも正しいとはいえないことを説明することができるかどうかをみる。				
学習の指導に当たって	観察や操作、実験などの活動を通して、直線や平面の位置関係の捉え方が生かされるような具体的な場面を取り入れることが大切である。直方体 $ABCD-EFGH$ の辺を直線、面を平面として、1つの平面に平行な2直線は平行であるかどうか、考察する場面を設定することが考えられる。このとき、直線 AB 、直線 BC 、直線 CD 、直線 DA は、すべて面 $EFGH$ (平面)に平行である。直線 AB と直線 CD 、直線 BC と直線 DA は平行であるが、それ以外は垂直であることを確かめることが考えられる。				
通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
35	31.7	30.8	0.9	思考・判断・表現	記述
問題の内容	データの散らばりと代表値				
出題のねらい	平均値についての説明の正誤を判断し、その判断の理由を正しく説明することができるかどうかをみる。				
学習の指導に当たって	目的に応じてデータを収集し、コンピュータを用いるなどしてデータを表やグラフに整理し、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察できるように指導することが大切である。このとき、データの代表値の適切な用い方について検討し、判断できるようにする場面を設定することが考えられる。また、データの分布全体を確認した上で代表値を用いるようにすることが大切である。				

令和6年度 山梨県学力把握調査の結果分析 中学校第2学年・英語

実施生徒数 (人)	設問数 (問)	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
5533	32	55.6	56.3	-0.7

推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	県-全国 (ポイント)
領域	聞くこと	67.8	65.8	2.0
	読むこと	51.1	53.0	-1.9
	書くこと	50.2	51.7	-1.5
観点	知識・技能	64.7	65.6	-0.9
	思考・判断・表現	42.2	42.7	-0.5
解答形式	選択式	57.2	61.4	-4.2
	短答式	67.4	67.7	-0.3
	記述式	34.5	34.9	-0.4

設問別正答率					問題の内容	出題のねらい	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)
通し番号	解答形式	観点		領域					
		知	思	聞 読 書					
1	選択	○		○	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解しているかどうかをみる。(禁止)	85.6	82.2	3.4
2	選択	○		○		絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解しているかどうかをみる。(曜日)	82.9	80.3	2.6
3	選択	○		○		絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解しているかどうかをみる。(動作と時間帯)	66.5	68.4	-1.9
4	選択	○		○	リスニング(対話文の応答)	対話を聞き、適切に応答しているかどうかをみる。(第三者の行動をたずねられて)	63.3	64.3	-1.0
5	選択		○	○		対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答しているかどうかをみる。(自分で作ったのかをたずねられて)	55.7	57.2	-1.5
6	選択		○	○		対話を聞き、対話の概要を捉えて適切に応答しているかどうかをみる。(何時に来たかをたずねられて)	52.7	51.6	1.1
7	短答		○	○	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	日常的な話題について聞き、概要を捉えているかどうかをみる。	95.2	93.7	1.5
8	選択		○	○		日常的な話題について聞き、要点を捉えているかどうかをみる。	53.8	50.0	3.8
9	記述		○	○	リスニング(対話文の応答)	対話から必要な情報を聞き取り、絵をもとに英語で答えているかどうかをみる。	54.7	44.9	9.8

10	選択	○				語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(命令文の動詞の形)	54.7	52.6	2.1
11	選択	○					対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(現在進行形)	61.2	62.2	-1.0
12	選択	○					対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(一般動詞過去の疑問文)	34.6	39.6	-5.0
13	選択	○					対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(所有代名詞の形)	77.6	85.0	-7.4
14	選択	○				語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解しているかどうかをみる。	77.1	76.0	1.1
15	選択	○					対話文の情報を読み取り、その内容を理解しているかどうかをみる。	79.3	80.3	-1.0
16	選択	○				さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと資料から、問われている内容を理解しているかどうかをみる。	51.7	54.8	-3.1
17	選択	○					対話を読み、対話の流れと資料から、問われている内容を理解しているかどうかをみる。	49.0	50.0	-1.0
18	選択	○					英文の内容を理解し、適切な絵を選んでいるかどうかをみる。	48.1	48.3	-0.2
19	選択		○				英文から必要な情報を読み取っているかどうかをみる。	23.5	28.3	-4.8
20	選択		○			英文を読み、その概要を捉えて適切な順番で絵を選んでいるかどうかをみる。	24.4	23.9	0.5	
21	選択	○				長文の読み取り	生徒が校内に配信した話の内容を読み、指示語itが指す内容を理解しているかどうかをみる。	65.0	68.6	-3.6
22	選択	○					生徒が校内に配信した話の内容を読み、適切な絵を選んでいるかどうかをみる。	48.3	49.6	-1.3
23	選択		○				生徒が校内に配信した話の内容を読み、その要点を捉えているかどうかをみる。	46.3	46.2	0.1
24	短答		○				生徒が校内に配信した話の内容を読み、その要点を捉えてメールを書いているかどうかをみる。	24.9	29.0	-4.1
25	短答	○				単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(whoを含むbe動詞の疑問文)	73.8	76.9	-3.1
26	短答	○					文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(助動詞canの疑問文)	53.4	57.2	-3.8
27	短答	○					文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(一般動詞過去の否定文)	77.3	73.8	3.5
28	短答	○					文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(whatを含む現在進行形の疑問文)	79.5	75.8	3.7
29	記述		○			場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いているかどうかをみる。(How manyを使って数をたずねる)	21.8	35.8	-14.0
30	記述		○				対話の流れに合った英文を、相手に伝えるように書いているかどうかをみる。(Whereを使って場所をたずねる)	16.0	28.3	-12.3
31	記述		○			3文以上の英作文	自分の得意なことについて、まとめた内容で説明する文を書いているかどうかをみる。	31.5	31.6	-0.1
32	記述		○				友達の動画に合わせた紹介文を、英語で相手に伝えるように書いているかどうかをみる。	48.3	34.1	14.2

観点の表記の意味は下記の通りです。
【観点について】(知)知識・技能 (思)思考・判断・表現
【領域について】(聞)聞くこと (読)読むこと (書)書くこと

【比較的できている設問】

通し番号	問題内容	出題のねらい	観点	解答形式
1	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解しているかどうかをみる。(禁止)	知識・技能	選択
2		絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解しているかどうかをみる。(曜日)		選択
13	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(所有代名詞の形)		選択
14	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解しているかどうかをみる。		選択
15				選択
25	単語の並べかえによる英作文	文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(whoを含むbe動詞の疑問文)		短答
27		文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(一般動詞過去の否定文)		短答
28		文の語順を理解し、正確に書いているかどうかをみる。(whatを含む現在進行形の疑問文)	短答	
7	リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	日常的な話題について聞き、概要を捉えているかどうかをみる。	思考・判断・表現	短答

【課題がある設問】

通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
12	34.6	39.6	-5.0	知識・技能	選択
問題の内容	語形・語法の知識・理解				
出題のねらい	対話文を読み、文構造や文法事項を理解しているかどうかをみる。(一般動詞過去の疑問文)				
学習の指導に当たって	既習事項について繰り返し触れさせるために、帯活動やSmall Talkを活用することが大切である。その際、生徒のやり取りを指導者がモニタリングし、内容面だけでなく言語面の正確性に関して生徒に共通してみられる課題を取り上げ、中間指導を適切に行うことが大切である。				
通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
19	23.5	28.3	-4.8	思考・判断・表現	選択
問題の内容	さまざまな英文の読み取り				
出題のねらい	英文から必要な情報を読み取っているかどうかをみる。				
学習の指導に当たって	必要な情報を英文中から読み取り、得た情報を整理して答える力が求められる。メール、広告、予定表などから、読み手の目的に応じて必要な情報を読み取る言語活動などが考えられる。その際、日常的な話題を取り上げるなど、できるだけ現実に近い場面や生徒との関連性の高い状況を設定することが大切である。				
通し番号	県平均正答率(%)	推定全国値(%)	全国との差(ポイント)	観点	出題形式
30	16.0	28.3	-12.3	思考・判断・表現	記述
問題の内容	場面に応じて書く英作文				
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いているかどうかをみる。(Whereを使って場所をたずねる)				
学習の指導に当たって	必要な英単語を理解していても、その単語を用いて正しく英文を書くことができていないことが考えられる。話すことの言語活動において、相手の発話に応じ関連した質問や意見を述べるなど対話を継続・発展させる指導を繰り返し行い、単語や文法事項の使い方の理解を深めることが大切である。書くことの言語活動としては、自分が質問したり答えたりしたことを書き出して、文脈や状況に応じて正しく書くことができているかを確認したり、それらをペアでチェックしたりする活動などが考えられる。				